

私のすすめるこの1冊

柳本 哲 (数学科 教授)

『伝説の算数教科書〈緑表紙〉塩野直道の考えたこと』

松宮哲夫著

私の担当する授業に「初等算数科教育」という科目があり、その中で取り扱う内容に算数教育史があります。そこで、明治以来の算数科教科書の特徴を紹介しますが、その表紙の色から、黒表紙、緑表紙、水色表紙という3種類の教科書が登場します。

本書は、この緑表紙教科書の編集に携わった塩野直道が考えたこと、当時の算数科教育における改良運動のうねりについて考察し、今後を展望したものです。まえがきには、次のように記されています。

「緑表紙という算数の教科書を知っていますか」「塩野直道という人をご存じですか」と尋ねるとき、「知っています」という方はごく少ないだろう。昭和一桁生まれの方か数学教育研究者などの少数の者に限られるのではないか。

昭和十年(1935)四月から十八年(1943)三月まで使われた文部省が著作権を持つ教科用図書、すなわち国定教科書『尋常小学算術』は、その表紙が緑色だったために「緑表紙」と呼ばれた(昭和16年以前は「算数」を「算術」と呼んでいた)。…中略…。緑表紙教科書の編纂主任が文部省図書監修官の塩野直道である。この緑表紙は黒表紙の教育内容を一新した。だから、当時の研究熱心な先生たちは「希望の緑表紙」と言った。また数学者の小倉金之助は「世界的レベルに到達することができる」と称讃した。当

時の算術教育界は活性化し、さらに中等学校の数学教育改造にまで波及し、また、中華民国の算術教育にも影響を及ぼした。

では、緑表紙はどのように出現したのか。どんな目的と内容をもった教科書だったのだろうか。また塩野直道はどんな人だったのか。これらを顧みることにより、現在の潤いに乏しい算数・数学教育や教科書の在り方について問うことができたらと願う。…後略…(以上、まえがきより)。

算数教育は、歴史とともに変遷し、今日があります。たとえば、珠算中心から筆算中心へ、筆算習熟から電卓使用へなどは、歴史とともに変容してきたといえます。

この歴史の中で、当時の人は、何をめざし、何を考えて算数教育に取り組んだのでしょうか。塩野直道たちが算術の主目的とした「数理思想」と小倉金之助の唱えた「科学的精神」との関係、小倉の考えていた数学教育、その背景にあった欧米の数学教育改造運動の動向、これらを当時の人たちはどのように受けとめて算数教育を改造しようとしたのでしょうか。また、塩野は辞職覚悟で何を局長にせまったのでしょうか。

これは、1つの歴史ドラマだ、といえるでしょう。

『伝説の算数教科書〈緑表紙〉
塩野直道の考えたこと』松宮哲夫著
岩波書店, 2007年(岩波科学ライブラリー135)
ISBN : 9784000074759

配置場所 : 開架南館1階
請求記号 : 375.41||MA81

図書館からのお知らせ

附属図書館の仮開館について

現在、学生課のある建物の2階にて仮開館をしています。どうぞご利用ください。
 ※学外の方もご利用いただけます。

【配置資料】

- ・開架図書（元々南館に配架されていた資料。
 参考図書・大型図書を含む）
- ・文庫 ・新書 ・新着雑誌 ・コレクションの森 ・京都
- ・就職支援 ・教員発刊 ・大学発刊 ・教科書 ・児童書

※貸出方法等は今までと同様です。

現在、増改築工事を行っております。
 利用者の皆様にはご迷惑とご不便をおかけして大変申し訳ございません。
 何卒ご理解いただきますようお願いいたします。



附属図書館の分室について

10月15日(月)より、事務局棟3階大会議室に図書館分室を設置し、下記の資料・設備が利用できます。※詳しい開館日程等は、図書館ホームページ等で随時ご確認ください。

分室設置期間	平成24年10月15日(月) ～平成25年2月15日(金)[予定]
主な開館時間	月～金 10:00-17:00
休館日	土日祝 その他別途定める平日 ※ホームページでご確認ください
利用対象者	学内者のみ
設備	視聴覚資料 ※即日貸出はできません AVブース IPC端末

事務局棟内 分室 開館日程表

10:00～17:00 ■休館 (CLOSED)

平成25年1月							平成25年2月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28			

※1/7 開館時間 10:00-13:00

※2月15日(金)まで

春季休業に伴う長期貸出について

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対象	院生・教職員	学部生
貸出期間	2013年1月12日(土) ～2013年3月6日(水)	2013年1月28日(月) ～2013年3月6日(水)
貸出冊数	12冊	7冊
返却期限日	2013年4月11日(木)	

※視聴覚資料は除きます。
 ※長期貸出図書の貸出更新(延長)はできません。
 一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。
 ※一般利用者・卒業生の方の長期貸出はできません。

教育資料館

まなびの森ミュージアムからのお知らせ

教育資料館まなびの森ミュージアムは、秋季企画展「京都・伏見の戦争と師範学校」と題した企画展を11月10日から12月7日までの間、一般市民、教職員・学生を対象に開催し、地域の方々や卒業生、学生、院生、教職員など、約389名の入館者がありました。



第19回「うたとおはなしの会」報告

2012年12月15日に、第19回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は、朝から降っていた雨もあがり、100名を越える親子連れで会場は熱気に包まれた。

まず、オープニングでは「サンタが街にやってくる」の音楽に合わせてサンタやトナカイの被り物を身につけた学生たちが登場し、歌と踊りでクリスマスムードを盛り上げた。続いて、「ごんべさんの赤ちゃん」の手遊びを楽しんだ後、パネルシアター「ぞうのすきなもの」では、演じ手の学生の問いかけに、身を乗り出すようにして大きな声で答える子どもたちの姿が多く見られた。そして、絵本「メリークリスマス おおかみさん」(みやにし たつや/著)は、大勢の子どもによく見えるよう、絵本の画面を正面のスクリーンに映し出し、語りと生の音楽で演出した。子ぶたを捕まえようとして怪我をしたちょっとまぬけな狼と、子ぶたのやりとりの場面では会場から盛んに笑い声が起こり、心温まるラストシーンでは、「よかったね」と微笑み合う親子の姿も見られた。

続く楽器遊びコーナーでは、子どもたちに大人気の「あわてんぼうのサンタクロース」を4人の学生がクラリネット、サクソフォン、トロンボーン、コントラバスで軽快に演奏した。学生の演奏の後、今度は子どもたちも各々好きな打楽器で演奏に加わり、会場は賑やかなクリスマスムードに包まれた。

そして最後の演目、人形劇「ブレーメンの音楽隊」では、飼い主に捨てられたロバ、犬、猫、にわとりの4匹が登場し、音楽隊を夢見て旅に出るストーリーに子どもたちは食い入るように見入っていた。4匹が軽快な音楽に合わせて行進するシーンでは、動物の動きに合わせておかあさんの膝の上でびよんびよん跳ねて遊ぶ0歳児の姿も見られた。泥棒たちが登場するシーンでは会場がしーんと静まり返り、「こわい



〜」と泣き出す子どももいたが、動物たちが知恵を出し合って泥棒を追い出し、明るく歌うラストシーンでは子どもたちも笑顔になり大きな拍手を送っていた。

最後に幼児教育専攻1回生がトーンチャイムで「メリー・クリスマス」を演奏して会が終了すると、「ブレーメンの音楽隊」に登場した人形たちと握手したり記念写真を撮ったりするなど、しばらくおはなしの余韻を楽しむ親子の姿が見られた。終了後のアンケートでは、「子どもが参加するとき、じーっと聴くとき、よく見るとき、など、見たり聴いたり感じたりする体験ができて、とてもよかった!」「学生さんのチームワークがよく、一つひとつの出し物の完成度が高くてすばらしかった。」「子ども(4歳男児)は目をキラキラさせていた。次回も必ず来たい。」など、好意的な感想が多く見られた。

次回、来年の春に予定されている「うたとおはなしの会」は第20回となる。新しく生まれ変わる図書館に相応しく、また新たな気持ちで地域の子供たちや保護者の心の拠り所となるような会を作っていきたい。

(幼児教育科 平井恭子)



今回の執筆者

井谷 恵子 (体育学科 教授)

教員養成におけるライフスキル教育の意義 —子どもにとっての学び、教師としての学び—

井谷恵子・関口久志・北山敏和・伊藤悦子・岡部美香・井上文夫
京都教育大学紀要, 2012, No.121, pp.13-25.

「ライフスキル」から何を思い浮かべますか。無人島で火をおこすようなサバイバル的スキルでしょうか。「就活」で期待されるような巧みなアピール力ですか。人間関係が希薄な社会で人と上手く関わり合うためのコミュニケーション力でしょうか。

本学で導入している「ライオンズクエスト」プログラムは、ライフスキルを「思考スキル」と「社会的スキル」からとらえています。「思考スキル」には、①問題解決 ②批判的思考 ③意思決定 ④目標設定、「社会的スキル」には、①人間関係形成スキル ②コミュニケーション・スキル ③問題への対処スキルが含まれます。

この論文では、教員養成においてこれらのライフスキルが持つ意味を、教師という職業自体に必要なスキルと、現代社会を生きる子ども達に不可欠なスキルという二つの観点から論じています。

教師の仕事は、教科指導だけでなく、生活指導やその背後にある家庭や地域の問題なども扱う多元的で無限定な仕事です。日本の教育が持つこの特徴は、教師の多忙化や葛藤の原因にもなりますが、一方で子どもの生活全体のケアにつながり、様々な教育活動を通して総合的な学びを保障する学校文化を醸成してきました。不幸にも、近年ではこの特徴が教師の多忙や自信喪失につながっています。学校の多忙化や教育課題の増大に加え、家庭の教育機能の弱体化など社会全体の大きな変化があるからです。

このような教育の場で教師が力を発揮するには、教科や教育に関する専門的知識だけでなく、子どもや同僚、保護者たちと対話し、協同しながら、課題を把握し、状況に応じて問題の解決を図る力、つまりライフスキルが不可欠です。残念ながら、教員養成のカリキュラムは専門的知識が中心で、学級づくりや問題解決のスキルはほとんど含まれてはいません。この論文がライフスキルの重要性への気づきや、授業やワークショップとの出会いにつながることを期待します。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 121号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも後日公開予定です。

●開館日程●

休館および時間短縮について

- ※12月22日～2013年1月6日は冬季休業
- ※1月18日は大学入試センター試験の準備のため17時閉館
- ※1月19日～20日: 大学入試センター試験
- ※1月26日～27日: 大学入試センター追試験
- ※2月25日～26日: 大学前期入試

カレンダーの凡例

日付	9:00~21:00
日付	9:00~17:00
日付	休館日

平成25年 1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

平成25年 2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

- 京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

- 携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>



京教図書館 News No. 148(2013年1月号)

発行日: 平成25年1月7日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp